琉球大学学術リポジトリ

# 神宮文庫本『狭衣』翻刻(巻四(2))



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学教育学部 |
| | 公開日: 2007-07-17 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 萩野, 敦子, Hagino, Atsuko |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/903 |

# 神宮文庫本『狭衣』翻刻（巻四②）

萩　野　敦　子

The Reprint of JINGUBUNKO-BON
"Sagoromo" (Vol.4. 2)

Atsuko HAGINO

# 神宮文庫本『狭衣』翻刻（巻四②）

萩野敦子

## はじめに

本稿は、前稿「神宮文庫本『狭衣』翻刻（巻四①）」（二〇〇五年二月『琉球大学教育学部紀要』第六十六集）に引き続き、『狭衣物語』の一伝本たる神宮文庫本の巻四後半の翻刻を、神宮文庫の許可を得て紹介するものである。今回は「巻四②」として当巻の七一丁以降を掲載することにする。凡例については拙稿「神宮文庫本『狭衣』翻刻（巻一）」（二〇〇三年三月『琉球大学教育学部紀要』第六十二集）を参観いただければ幸いである。

今回をもって神宮文庫本『狭衣』の翻刻を紹介し終えることになる。以前拙稿「神宮文庫本狭衣物語に関する考察」（二〇〇三年四月・新典社『論叢狭衣物語4　本文の様相』）において、この伝本の特徴を概観したことはあったが、『狭衣物語』の享受過程における位置づけや同族の龍谷大学蔵甲本との比較など、まだまだ考究すべき課題は多い。それらについては、後考を期したい。

なお、連載六回にわたって貴重な写本の翻刻の公開をお許しくださった神宮文庫本関係者の方々に厚く御礼申しあげます。

## 神宮文庫本『狭衣』（巻四②）

御いろあはひなと雪にもてはやされたまいていとゝあたりまてこほるゝ心ちする御かほりあい行なとを大弐のめのとかゆのまかなひしてつつましけならすさしむかひたてまつりうちゑみつゝみたてまつるけしきのめてたさこそけにおもふことなけにいけるかひある人とみゆるや御てうつはかりをめしてまつめすにまいらんとてさうそくしとけなけにていて給を大弐ぬり《一本ニぬるみ》侍りぬまつなを〳〵ときこえさすれはいまさへあまりねちけかましうならはし給こそ心もとなくはまつかはかりしてよとの給へはいてやなにこともあしうならはしまいらせたりともおほえ（71オ）」侍らぬものをなとうちわらいたるけしきもけにたけうめてたけなるありさまなりかのきこえしわたりの故郷にひとりたちかへりてこゝろほそけなれはけさやかにてむかへたるそとはせたまはさらんかきりはうへにもなにか申さるゝ宮のへんにもいとおりあしきころなれはよきことゝもの給はせし三條なとにもたちまちにこと〳〵しきやうなれはいましはしいかやうにてやと思なりおい人ひとりそくしたるをありつくへきやうにものせよとの給をきくほとはたゝうちゑみて殿うへもなにしかきこえさせ給はんいかにも〳〵御心とゝめさせ給はん人をは（71ウ）」いかてかとこその給はすめれまいてあなかたしけなやいかに思しめしよろこはせ給はんあなうれしや思こととこそなくなりぬれときこゆれは心とゝまるとたちまちにさたむへきならねと心ほそけなる人なめれはなにかは心やすくものむつかしきよのなくさめにおもふなりとかたらいをきてわたり給ぬれは大弐ちかくよりて木丁のかたひらひきあけてみれは御ふすまにうつもれて人おはしけもなきに御くしはかりそこちたけにたゝなはりをかれてところせけなるにあなうつくしとめとまりていてなに事もなのめにおはせん人をかくまて（72オ）」はもてなしきこえ給はしとは思つれとうちみるは猶おとろかるれはよりてひきのへてすそうちやりたる

かまことにをくれたるすちなしとはこれをやいふへからんとみてとるてもすへるはかりなるつやすちのうつくしさなと斎院の御くしにいとようにたまへりなかさそまたすこしをとりてやとみゆるは御年のほとにしたかひ給へるにやと見るかくおとろききこゆるけはひをきゝて弁のめのとのよりきたれはとのゝ御けしきのまたみたてまつりしらぬさまにみえさせ給へるかめつらしさにおとろかれ侍りてちかうまいりよりて侍にことはりにこそとこの御くし（72ウ）」はかりにまつ思給へなりてこそよとくもに世中をあくかれさせ給へはあけくれとのうへよりはしめまいらせわたくしの心きもをまとはしつゝすこしのほたしにおほしぬへからん人をきゝいてはやとから国まてもたつねさせたまはまほしけにおほしまとふめる御いのりのしるしにやとかつくむねもやすまる心ちし侍りてなんまいてうへの御まへなときかせ給はゝいかはかりおほしよろこはん物を一品宮わたりにきかせ給はんにこのころはおりさへいとをしうなとおほしめすにやたれにもしはしはなとの給はせつるなと君の御心のうかれまとひ給てつゆはかりこゝろとゝめ（73オ）」給ふもなうもてさはかれ給ひつるとしころのものかたりこまやかにかたりいてゝよろこふにけにかはかりまておほしとゝむることなかりつらんにあすのふちせはしらすけふはかりにてもいかなるすくせにてか人もかうみしり給はかりの御けしきにもとうれしさもをろかならねといとさはかりならむ御心のうちなこりなきやうはありかたうこそ侍へかなれとしころもかやうなる御けしきとはうけたまはりなからきゝのまにくたねとるらんあまたのつらにてはいとほいなくやとおほしつゝむめりしほとにあさましううちすてきこえ給てのちいくらはかりのほとを（73ウ）」たにへすあくかれいてさせ給ぬるもいかなることにかとほれくしきまて思給へられてこそ皇后宮よりもきこえさせ給やう侍しをかくわかぬ御なかにしもゝのせさせ給てつゐにはいかなることゝも侍りて身つからのあさましうもてなしきこえたるにか侍らんとむねもまたおちゐ侍らぬにいとゝこの御ものかたりにこそしたくつれたる心ちし侍れといふさまもいとめやすき人さまなりあなまかくしやおほろけにおほしさためたるに侍らしよしみたまへ春宮にまいらせ給へらんにをとりたる御ありさまにはへらしと心をやりていひちらし（74オ）」つゝ御くしをうちもかすめてゐたりさいしやうは昨日おはせすなりにしをおほつかなさに御ふみたてまつり給ほとに大将殿より御ふみあるをまつみ給へはにはかなるやうに思給へしかとみには日つゐてもよろしからす侍しかはよへなんこの侍所にわたしきこえさせてし弁なとはいみしうさはかれきこえさいなまれなんとておち侍しかとふみわけたるあとも侍らさりし庭のけしきもみをきかたふ心くるしうみ給しかはなんかんたう侍ましくはゆふかたたちよらせたまへみつからきこえむなとそきこえ給へるさこそはなと思ひつることなれとにわかにかろく（74ウ）」しきさまにてわたり給にけるはくちおしうおほゆれといてさはれ中くまかせたてまつりてんかしうちなとにきかせ給はんこともひんなかるへけれはことさらにしのひたるさまにもてなさんとし給ならんとおほせは御返にも月ころわつらふこと侍りつる人のこの五六日はいたうくるしかり侍つれはみ給へあつかひてふるさともいとゝあらし侍つるにたちよらせ給へりことをなんおとろき思給ふるさてもなとか御ともにはめすましき弁かつけ侍らさりけるもまいりてなんうらみ侍へきなとそありける弁のめのとのもとにもにはかにわたらせ給けるあさましさなとの給はせてふちころもなれと（75オ）」なへてならすけうらなるともたてまつりたまへりひめきみにもかうなん御ふみ侍るなときこえさせていみしけになきしほめ給へるにきかへさせたてまつりなとすわれもけさとりつくろひたりつれとみつはよつはにかゝやくやうなるとのつくりの御しつらひありさまよりはしめさふふ人々のなりかたちなともおほろけの人さしいつへうもあらすまはゆくめてたけなるにわれはたゝ

水とりのみきはにたちいてたる心ちしていとわりなし大殿のおはしますかたよりはへちに五けん四めんなるしんてんにたいわた殿なとみなこの御かたの女はうのさうしさふらひ（75ウ）」くら人所なとにせさせ給へるなるへし庭のまさこのしろかねかとみゆるにはかなき木草のたゝすまひなへての枝さしとはみえすふきよるかせのをとなひもおもしろういみしうてこのよともおほえぬ木たち水のなかれなりとしころみかとのほかより見いれつゝもこのうちにあけくれさふらひてなにことをおもふらんいかやうなる人かゝるありさまをすらんなと思ひやられし物をけにかくてみいたしたるは身をかへたる心ちそしけるたかきもくたれるもあめのしたにすこし人にしられたる法師そくはあけくれたちやすらひつゝいかなるわ（76オ）」さをして御らんしいれられむと心をつくしてあさゆふのいとなみにまいりつかうまつりてもなにはかりのめてたきこともなくたゝひとことはのなとの給ふれ給をかしこきことにてやむことなきかんたちめなとも内わたりの宮つかへよりはまつ〳〵とまいり給つゝ日をくらし夜をあかし給につけてもまたいますこしこの御かたをはさふらひよくしつゝことふえふみのかたにつけても花もみち山のおもしろさ春秋夏冬につけても又をの〳〵つかさくらゐをのそむこともこなたに申せはなにこともこよなう又たゝならぬ身のうれへもみたてまつるにい（76ウ）」のちのひ心ゆくさまなれはかた〳〵さふらひよくしつゝいけるかひあるありさまをはしめてうちみたてまつる心ちにはあなめてたのわかきみの御すくせやとあすはしらすけふはいかてかおほえさらんみたてまつり給はてのちはよひのほとなとたにたちかくれ給ふおりもなくてまれ〳〵も一品宮はかりにうちかよひまいり給もあかしもはてすひるまのほともくらしかたけなる御けしきなとをみるにつき草もきゝたてまつりし御こころのうしろめたさなれと思ひしほとよりもすきたる心ちのみするに人々の過にしかたのものかたりなとするをきくにそいとあやうく又（77オ）」たのもしくもありける殿うへこの御けしきのよのつねなるをたゝ御いのりとものかなふなめりとうれしうのみおほさるれはみやにもむけによるとまり給はぬこともうち〳〵なけき給つゝえ申給はぬにわかみやの大将のかたには斎院にゝたてまつりたる人そある宮のひめ君にやあらんされは今はまろをはふところにもいれすとうらめしけにおほしての給をあやしときゝ給て大弐のまいりたるにまことにさる事やとうへのとひたまへはしめよりのことをきこえさせてとはせ給はさらんかきりはなにか申すよからぬこと〳〵こそさいなみ給はんとの給はせしかはなん宮に（77ウ）」まいらせ給こともいとものうけにおほしめしてまいてよしなしありきなともいまはせさせ給はすこよなうよつきたる御けしきにみえさせたまへはうれしう神仏のし給とこそみ侍れ御かたちなとこそいとよき御あはひとみえさせ給へ斎院にそあやしきまていつくそやにたてまつらせ給へるなとかたりていとめてたしと思ひきこえたるをきゝ給御けしきもけにいとうれしけなりなとさの給ともみつからひとりにはなとかいまてはいはさりつらんかすならさらん人にてたにすこしも心とゝめ給へらんをはをろかに思ふへきにもあらぬをまいていと心くるしき御こと（78オ）」にこそあなれにはかにわたりていかにつゝましきことおほくおほさるらんなときこえあつかい給ほとに殿わたり給てなにことそとの給へはしか〳〵のことのありけるをいまゝてしらさりけるかあやしさかの御心ひとつに思ひあつかい給らんもほいなきことなりやとの給へはいみしうきゝをとろき給てすへて大弐か心のくちおしきなり身つからこそうちにきかせ給はん事なとによりてさもつゝみ給はめさりとてそれにしたかひてこゝにさへしらすかほつくりてあるへき事かはそのともにあらん人もさいしやうもいかにあやしき思ひのほかなるやうに思ふら（78ウ）」んとていみしくむつかり給てさるへきひとめしつゝ御しつらひもものゝくてうとなともひきかへあらたむへきよしの給はせなとしておほしをき

てもてかしつきゝこえ給へるさまそかきりなきものに思きこえさせ給へる斎院の御心さしにおとり給へうもなかりけるとまりし人々も又さらぬも心ことなるともかすしらすまいりつとひさいしやうもおもふさまにいていりみたてまつり給に故宮おはしましてかきりなき内まいりにおほしたちたらましもえかうしもやと思さまにおほさるゝにもうしろめたういみしきものにみをいたてまつり給てきえはて給し人の御心のう（79オ）」ちおほしいつるはいとくちおしうおほえ給けり大とのはかうもてかしつききこえ給ても一品の宮にまいり給ふことのかたきはいとかたしけなくあるましきことにおほさるれはさるへきおり〳〵に御けしきとり給つゝなを人めこよなかるましきさまにもてなしきこえ給へくをしへきこえ給をみつからの御心にも心にまかせてもえあるましき身そかしとみなおほすことなれとうちきくにはいてやとてもかくても身のくるしかるへきすくせそかしとおほすにものも申給はすかしこまりてまめたち給へるを又さそおほすらんかしとみたてまつり給にはあなあち（79ウ）」きなやかうまてうつし人にてみるへかりし人かはこれよりあるましき心をつかふとも露はかりにても心にものしうおもはん事をいふへきならすなとおほせはたゝすこしものおほしなくさめたるけしきなるをめてたううれしうたれもおほしてかけてたにきこえいてたまはさりけりされともとよりまいりかよひ給し夜はすはかうてのちとてもかはる事なうめやすくもてなし給へるをたゝつねのことにていまはたゝあてやかにみしらぬさまにもてなして物し給はゝ中〳〵心くるしうかたしけなきかたにはおもひきこえさせ給ふへきをあさましううち（80オ）」ゆるふもなううとくはつかしくつらき物にのみおほしてはかなきことのはのいらへもまれ〳〵は思ひのほかにとりないてことすくなにいらへない給つゝはつかしけにらう〳〵しけなき御ましりに心よからす見をこせ給へは月日にそへてはわつらはしさのみまさり給てかやうのこともとやかうやとうちかたりなくさめたてまつり給へうもなけれはたゝかたみにをしこめてたにのむもれ木にてそすこし給ける女宮もとしころはあさましう見まうき心とおほしなからさすかにそのことゝとりわきてなめけに見えきこゆる事もなきをはたゝ心のくせにこそ（80ウ）」は身こそはつらけれとおほししりて人のつらさとかむましきにおほしめしつるをいとかうまたしらすめてたき御なからひのためしにいひつたへらるゝかたつかたさへいてきにたれはいとゝいふかたなうのみおほされてやかてこの御はてのほとにあまになりて見えすなりなはやと人しれすおほせとそれにつけても人をも身をもうらみわひて身をすてつるためしにいま行すゑもいゝなかされんさまの人わらはれに心うかるへきを又さりとてつゐにはたえはてんありさまをかはらぬさまにてみはてんもいますこしおこかましう我心のうちもなくさめ所なかるへしなと（81オ）」おほしなりてうすみそめはやかてたちかへましうまうけさせ給てわたり給つるおり〳〵もすへりかくれつゝさらに見えたてまつりたまはぬなりけりすきにしかたはかやうなるよな〳〵もさして心とまるかたのなかりしかはこそひめ君ふところにふせたてまつり給又わかき人とはかないものかたりなとうちしてまきらはしあかし給しかいまはよろつにおほしつゝめとみまくほしさにさへいさなはれ給てさのみもえつくろひやり給はぬをいとあさましとのみ御心にあまるおりは二三日なともおきもあからせ給はすなきしつみ給へりかやうにてとしもかへりて十五日にもなりぬ大（81ウ）」将殿の御かたは女宮の御すかたなとこそあらたまるしるしとてもはなやかならねとのゝ御方にもとよりさふらひし人々はきぬの色ともはなのにしきをたちかさねつゝさま〳〵いはひすこしつるはての十五日には人々こゝかしこにむれゐつゝをかしけなるかゆつゝひきかくしつゝかたみにうかゝひ又うたれしとようしたるゐすまひをもちともをの〳〵をかしうみるを大将殿はみ給ひてまろをまつあつまりてうてさらはそたれも〳〵こはまうけむまことに

しるしあることならはいたうもねんしてあらんなとの給へはみなうちわらひたるにいとゝいまはさやうなるあふれものいてく（82オ）」ましけにこそとうちさゝめくもありけりわか宮いとうつくしき御ふところよりとりいてゝうちたてまつり給へはうちゑみ給てあなうれしや宮のあまりかたしけなくおほえ給にわたくしものまうけつへかめりとから〈しうよろこひ申給ふもをかしやかて申とり給てひきかくして女君のおはする木丁のかみよりやをらのそき給ふををかしとたれもみたてまつりつゝしのひつゝわらへはあなかま〈とてかき給弁のめのとはさすかにあやうけに思ひてかほうちあかめたるそをかしかりけるあたらしきとしのいま〈しさにやいとくろきなとはなうてあさきのこきうすきな（82ウ）」とめつらしきさまにあまたうちかさねてうへにもおなし色のむもんのおり物なとかさなりたるもいとこは〈しうはへなかるへきをあくまてはな〈とにほひおほくきない給ててならひしてそひふし給へる御うしろてはふきよらんかせの心もうしろめたう心くるしかりぬへうおほゆれはこのきもえさしよせたまはてこれみたまへいまゝてこもたらすとなけい給てまろかこしうてとてわか宮のとらせ給へりけれはわひしういたきめをこそみつれまことならは御ためおそろしかなる事をむつかしきわさかなとの給へは御かほいみしうあかうなしていとゝうつふし給へるかよにしら（83オ）」すうつくしけなるもなをあさましきまて思ふ人にもにたてまつり給へるかなとみ給にいとゝあさからぬ心さしもまさる物からかはかりをなくさめにてやみねと神ほとけのおきて給へるこそとかたつかたの御むねはなをうちさはけは女君のもたまへるふてをとりて

たつねみるしるしの杉もまよひつゝ猶神山に身やまとひなんなと人みるへうもあらすかきけかし給ひめ君のまなやかなやなとさま〈うちとけてかき給へるすみつきもしやうなとのまことにすくれてをかしけなるをうちかへしみ給ふも思しことはかなはぬにはあらすかしとこ（83ウ）」のかみやまのまよひはまめやかにはあるへかりしことかはとおほしなす御すゝりにむめかさねのかみのなへてならぬあまたかさねてをしまかれたるをとりてみ給へは皇后宮の御ふみなりけり日比ゆくゑなうおほつかなきことをおもひ侍つるに一日ちかきほとになんとさいしやうのものせしかは心やすくなりにて侍れとかはそひやなきはをいかにそやそ侍けるおなしくは木たかき枝にこつたはてしつえの梅にきゐるうくひすとありけるをうちほゝゑみてみ給てこのしつえはこと人のいはんやうにいとからきことをもの給はせたるかな御かへ（84オ）」りはいかゝきこえさせ給つるときこえ給へははか〈しうもいらへ給はねはまめやかに春宮にはいかにやすからすおほすらんあさましきことなりやあやまりてもゆつりたてまつらんこそほいにて侍へけれにはたつみ見つけたりしひなともわかものにおほしたりしものを又こよなうとりわき給へりしも人しれすくちおしうすくせのほとはおほししらんかしさはありともいまはなにかさもおほすさらてもかひなからぬやうもありけりとおほししらるるやうもありなんなとこまやかにうちかたらひきこえ給へるあはひみるかひありめてたきためしにしつへしかやうになのめならす（84ウ）」みるかひある人をあしたゆふへみなつさい給にはすきにしかたのものなけかしさもみなかきくらしわすれ給ぬへけれとわか宮のなをよるの御ふところあらそひのわか〈しさをなくさめきこえ給たひことにもまつかきくもり物あはれなる御心のうちはつゆはかりありしにかはる事なかりけりとさまかうさまにつけつゝあさましくおもはすなる心のほとを見えたてまつりてもやみぬるかな一品の宮にまいりそめにし比おひは心のうちの《うかり》こかれまとひしほとを夢のうちのかよふ玉しゐあらはをのつからしり給なんとたのまれしをいとゝ見しにもにたると（85オ）」ありし御てならひをいとおしうかなしかりしものからなへてよつかぬ心のくせをおほしやすらんとおもふかたにもなくさめられしをこの比はをはす

て山の月にはあらぬわかこゝろもきこえやらんかたなくてひさしうさへきこえさせ給はぬも又いかやうにかおほしなすらんなと人やりならすなけかしくてわか御かたにひとりなかめふし給つる夕くれの空のけしきとりあつめていとしのひかたきにおほしあまりてれいの心ときめきすこしほのめかし給へり

なかむらん夕の空にたなひかて思ひのほかにけふりたつ比なときこえ給へりされと（85ウ）」れゐの中なこんのおほせかきはかりにてかひなきもつねの事にてめなれ給ぬへけれとこはかゝるへき中のちきりかはなとかはわかこゝろのつらきそかしといひやるへきかたなうわりなき心くるしさなとはたゝ昨日けふのやうにくらされ給ほとにかゝるひとりゐし給て身をこかし給事たえさりけり一品の宮におひいて給ひめ君をとなひ給まゝにけになへての人のゆかりとはいふへうもあらす大将殿にもうちおほえたてまつり給てなのめに人のおもひきこゆへうもあらぬありさまなれとみやは心つきなきゆかりとおほせは我御心ひとつ（86オ）」にまかせてあはれにおほしあつかふへきことゝもおほすかはかりまてほのめき給ふもたゝこの御ゆかりとのみ心え給へは世をそむきなんのちまてなこりもとゝめまうきをたゝあらはしてわたしやしてましとおほすをみしり給はすなに心なきさまのうつくしさをさすかにあはれにも人しれすおほしけりかやうなるうちくの御けしきを御めのとともなとは見しりたれととのにもつゆはかりほのめかしきこえさすへき御さまにもあらすはつかしけなる御けしきなれはたゝあはれに心くるしき御こと（86ウ）」ともをのくいひあはせてそすくしける大将殿もすこしは心えさせ給にし御けしきなれはけにいかにせましとおほす折くはありなからいまさらにいかにしてかはほかさまにももてなしきこえ給はんおほかたの有さまをとかうきこえあらはし給はねとなのめならすもてなし思ひきこえさせ給つれはかゝりとてもくちおしうあかぬことありぬへき御ゆくすゑならねとへたてなき御なからひにおなし心にもてかしつかれ給はましやうにはいかてかはあらんかたみに心のうちともさはやかならすおもひなし心くるしうおほさるゝことには又むかしもおほしいてられぬお（87オ）」りなしかすならぬきはとあなつらはしかりしかとかかる人のたくゐもことになかりけれは行末はしゐてしもえをとしめさらまし物をなとおほかたすきにしかたはわすれぬ御くせのなみたもろさはたゆへきよもなしあかぬ事なくめてたき人をみ給ひなからもかやうなる心のうちともたえすならひけるしのひかたさの物なけかしけなるなとはをのつからもりつゝならはゝとのみおもひきこえさせ給へるかひなうひめ君もうちとけにくゝへたておほかるへき御心と人しれすみしられ給けり大殿にもひめ君をいとゆかしくくちおしきことゝつねにきこえさせ給へと（87ウ）」なをあるやうはへれはなりいまつゐには御らんしてんとのみ申給つゝそすくし給けるあつきほとになりてはいとゝおもふあたりのすゝしさよりほかにいとたちはなれにくゝておきふしもろともにみたれすくし給ほとに斎院にもれいならすおほつかなきひかすへたたりけるをおほしいててすくしき夕かせまちつけてまいり給へれは人すくなにしつかなる心ちして御まへに二三人さふらひける人もみなうちふしてねいりたるにやをらちかうまいりよりてみきちやうのそはよりみいれ給へれは御まへにも御とのこもりたるなりけりふたあひのうす物をた（88オ）」てまつりてひきかつかせ給へれは御かほも身も露はかりかくれなきに御くしのゆくゑもしらすつやくとたゝなはりいきてひたいかみのかゝりたる御わきめかんさしなといとかうこまかにはひさしうみたてまつらさりつれはめつらしくうれしうてつくくとまほりきこえさせ給にむかしよりなをおほろけならすみきこえさせてしけにやいとかはかりなるにほひなとはさらにならひきこえさすへき人こそなかりけれいてなをわかすくせのくちおしうも有けるかなこれをわかものとみたてまつらすなりにけるよあふにしかへ

はとかやいとかはかりなる人にしもいひを（88ウ）」かさりけんかしこの御身にかへんいのちはさらにおしけなかりける物をこゝろきようみないたてまつりけるわか心はおほろけならすつようもありけるかないまとても御身をひたすらなきものにおもひなさはかたうしもやはあるへきなと月ころすこしおほしまきれつる心のうちもかきくらしおほしつゝけてなけしにかゝりてつく〳〵とゐ給へるにうちおとろきてみあはせさせ給へるもあさましくいかにみたまいけんとはつかしく覚しめされて御かほもいとゝあかうなりてやうやう木丁にまきれいらせ給へるもいとくちおしう人々もいまそおきつゝすこしゐさりのきなとしぬ（89オ）」れはつねよりもたへかたきみたりこゝちにまかりありきもえし侍らてひさしうまいり侍らてさるは一日もまいり御らんせられはいとおほつかなふくるしう思ふ給へらるゝにこそ御まへにはさしも思しめいたらぬものをなと申給へはれいよりはあやしうほとへつれと御心ちはえしらさりけりなとわかみやにもひさしうはとの給はするをれいよりはまちとをにおほしめしけるよかう心ことなる人のしるしとそおほしめすらんかしとむねうちさはき給てくるしうおほさるゝもあちきなしや宮はいみしうまいらまほしうしたまへとうへのやかて（89ウ）」けふあすわたらせたまはんにもろともにをとのみきこえさせ給めれはなんけふもうちよりやかてまいりはへれはなと申給てまこと人しれす心ひとつに思ひ給へあまる事こそ侍れあらふる神もことはりしり給わさに侍なれはにやとは思給へなからなかなかなるかたしろをこそ見たまへしかいてやされとしはしわするる心は神もえつけ給はぬわさにやいますこしあやかりやすくそなりにて侍そらめにやとはいかて御かゝみのかけに御らむしくらへさせんとてうちほゝゑみ給へるけしき大弐かいふとてうへのの給し人のことにやときかせ給へと（90オ）」御いらへもなけれはうちなけい給て

おほかたは身をやなけましみるからになくさのはまも袖ぬらしけりとてはてはれいのしのひかたけにもらしいて給なみたのけしきに又かきくつし心つきなふおほしなられてなをねふたけなるけしきにもてないてふさせ給ひぬるもなか〳〵なにしにきこえさせいてつらんとくやしうおほすそのころよのなかいとさはかしくてみちおほちにゆゝしき物おほくやんことなき人もあまたなうなりなとし給へはあはれにはかなきことをたれもおほすにみかともなにとなうれゐならすおほされ（90ウ）」て心えぬさまの夢さはかしう見えさせ給へはわかよのつきぬるにやと心ほそうならせ給にもつきのおはしまさぬ事をいかてかはくちおしうおほさらん大とのゝまいり給へるに御ものかたりこまやかにきこえさせ給ていのちもすくせもつきぬる心ちするをしらぬかほにてのみすくしてこのよをわかれなんことのいとつみふかくくちをしかるへきを大将のあつかりのわか宮はたゝ人になさんのほいふかきときゝしかとむつきにくゝまれ給へる女たいにゆつりをきもしは一せのけんしのくらゐにつくためしをたつねてとしたかうなり給へるおほいま（91オ）」うちきみのはうにいんよりはあえなんとこそおもふはいかゝさのみいひつゝくらゐをおしむともかきりのいのちのほとは心にもかなふへきならぬをみるおりになを一日にても心のとかなるさまにもなりなまほしうとのたまはするをいかてかはふとよき事としもおほされむ世中のしつかならぬことはをのつからさのみこそ侍れをの〳〵さきのよのちきりのほともきゝいれさせ給ふへきにも侍らす御心ちのれいならすおほさるらんこそふひんにさふらふことなれと御いのりなとせさせ給てなをしつかに心みさせ給はんこそよくはへらめあまりもの（91ウ）」さはかしきやうにさふらひなんとそうし給てもけにはうにゐ給へきみこのおはせぬをいかなる事にかとおほしなけきけりうち〳〵にはわかみやの御すくせのいとかたしけなかりけることゝもやかしつききこえさせ給を大将殿はあるましきことかなときゝ給へといかてかはさもきこえ給はんけに女たひもかゝるおりやむかしも

ゐ給けんいかなるへきよにもと人しれすおほすにもかのみねのわか松とかやいはひをい給けんをひさきのまことにかなひ給やうあらはいかなる心ちしなんさることのあらはしもまことにいけるかひありける身とはおほえなんかしかのつれなき御心にもさりとも（92オ）」いかてかいとむけにはおほされんなと心ひとつにおほすにつけてもさしむかひてとやかくやとかたみに心のうちともをきこえあはするよもなくてすきなんはなを〳〵返々おもふにもいふにもあまりてくちおしう心うくおほされけり中なこんのすけ大弐のめのとなとおなしきはらからといへとおなし身をわけたるやうにかたみに思かはしたれは此人のつゆはかりももらしたらんことを身のほかにちらすへきならねはなき御かけの御らんせん事もありさはかりかくししのはせ給て過させ給しことを心よりほかにわか心はしりそめしことたにかたはらいたかりけり（92ウ）」又入道の宮もこの御わたりにはのこりなうしうたらんとさはかりおほしめしうたかひたるものを末のよにもをのつからきゝあはせ給ておもひのほかなりけりとこそおほしめされめとてもかくてもいまはわか宮の御ためにたれもをろかにおもひきこえ給へうはたなかりけりとおもへは大弐にもこの御事をかたらさりけりなつふかうなるまゝに世のさはかしさもいやまさりにてたかきもいやしきものこる人すくなけになり行つゝ月日あめほしのけしき雲のたゝすまひしつかならす心あはたゝしきまゝにみかともいとなやましうのみなりまさらせ給へはなを（93オ）」わか世はつきぬるなめりと思しめしてむかしの一条院におりゐさせ給へきさためになりぬとし比もつきおはしますましきにやとくちおしきことにあけくれおほしめしつれとさりともあるやうあらんなとたのみすくさせ給つるをきのふけふとなりてはなをいとほいなきことに覚しめすことかきりなしよの人もいまたさかりの御よはひなりちゝみかとたゝ人になしきこえ給てし宮を又とりかへしはうにすへ給てくらゐをさらせ給ふ事はあるましきことなやめと大殿なとはさはかりやんことなうおはせしきさきはらになのめにたにあらぬ御さまにてうま（93ウ）」れたまへりし物をあるましかりしことそかしなとの給をいとをこかましと大将殿はきゝ給さかの院にもおほしはなれしかたさまの事なれはなのめにもいかておほされんいのちなかりけるかうれしきことゝよろこはせ給に斎宮もあやしうさとしかちにて宮なやましけにし給よしきこゆれはさかのゐんなとおほしなけくにあまてる神の御けはひいちしるくあらはれいて給ひてつねの御けはひにもかはりてさた〳〵との給はすることともありけり大将はかほかたち身のさえよりはしめ此よにはすきてたゝ人にてあるかたしけなきすくせありさまな（94オ）」めるをおほやけのしり給はてあれは世はあしきなりわか宮はその御つき〳〵にて行末をこそおやをたゝ人にてみかとにゐ給はんことはあるましきことなりさてはおほやけの御ためにいとあしかりなんやかていちとにくらゐをゆつりたまいては御いのちもなかくなり給なんこのよしを夢のうちにもたひ〳〵しらせたてまつれと御心え給はぬにやなとやうにさた〳〵との給はすることおほかりけれとあまりうたてあれはもらしつかゝるよしをしのひて大とのにもうちにもそうせさせ給へるにきゝおとろかせ給ことかきりなしわか宮の御ことをそたれも心えすあやしう覚しける大とのゝうへなとの（94ウ）」御心のうちそいゝつくすへきかたなきやあらたなる神の御心よせとはさたかにきゝなからもさるましきほとのことは行末もいかゝとおそろしきかたもさま〳〵にこゝろしつかならすおほさるれはきゝ給てのちはおもひねにやよをならへてみかとの御夢にもとのゝ御夢にもとくかはりゐさせ給はすはあしかりなんとのみうちしきり御らんすれは心あはたゝしうおほしめされてまつわか御みこになさせ給て八月御くにゆつりあるへきさためになりぬちかき世にかゝるためしもことになきことなりとおほやけをそしりたてまつるへきやうもなけれとなをいかなることかあ（95オ）」らんといひなやむ人お

ほかるにたうりをたとりしらぬ女なとはたかきもみしかきもたゝときくもみたてまつらんことのたえぬる事と思ひなけくさまよになくなり給はん人のやうにあまりゆゝしきまてそありける身つからの御心にもおほしたちしかたさまいとかけはなれはてゝ今さらにいとあたらしうありつかぬ心ちそし給へけれはふさはしからぬ身のくせとおほしなけかるゝなかにも斎院をみたてまつらんことのいまはありかたうなりぬへきくちおしさはさらにいひやるへきかたなけれは此よにいひあつかはるらんやうにけにはあるましきことなれはいとかうも（95ウ）」おほゆるにやあらん又えたもつましかりけりとさすかなるをこかましさをあらはしはてんことよなとさへかたくし身やすからすわりなき御心のうちきしかたにもいやまさりになりたりされとみかとの御心ちまことしうをもらせ給て一条院にわたらせ給ぬれはのかれ給へきやうもなうなりぬるにおほしわひて斎院によさりつかたいとしのひてまいり給へりつねよりもあつさ心なきとして御身もなやましきまておほしめさるゝにからうしてゆふかせすゝしうふきいてたれは人々はしつかたにいてゐつゝ月の心もとなきをまちわたるほとのたとくし（96オ）」さにまきらはさせ給てまいり給へれはふともえいりはてさせ給はぬ御けはひのつねよりはちかき心ちするにもいとゝ心のうちはかきみたりていとしのひかたしかやうにまいり侍らん事もいまよりはあるましきさまにうけ給はれはこよひはかりもなをみたてまつりてこそはとてなんいとあまりおもひかけぬさまに侍へけれはすくせなともつきてよにえなからへぬやうも侍なんまたさらすともみたてまつらんことこよひこそかきりにも侍らめなとえもいひやり給はすいとあまりなる御けしきをもかうのみかきりなき御なからひともとみたてまつりしりたるにまい（96ウ）」てこの御ありさまはおほつかなう一日もけにすくしかたう思ひきこえさせ給はんことはりそかしなとあはれにそみたてまつる御まへにもみるをあふにてはやむへき物とおほしめしつるを思ふさまに御うれしき御有さまなからもおほつかなさはけにとはかりはみゝとまらせ給へとれいのことつゝけてあるへかしき御いらへしなけれはわかこゝろのうちははるくへきやうなしあきらかならぬ空のけしきもなを心つくしにみまいらせ給へるをかつらおとこもおなし心にあはれとやみたてまつらんあつけにたちくもりたりつるむら雲はれて月のかけはなやかにさし出たるにみき丁に（97オ）」はつれてけさやかにみえさせ給へる御くしのかゝりつらつきなとはとうかくのくらゐにさたまるともみたてまつらすなりなんことはくちおしかるへきをましてもとよりこのことはことにこのますなりにし御心なれはいかてかはなのめにおほされむあるましき心のうちのかけくしきかたさまをいまはいかなりともおほしよるへきならねと水のしら波なる御ありさまを雲のよそにのみ思ひやりきこえさせ給はんにはなからへぬへからむいのちのほとなりともいかゝとおほしつゝけて月のかほのみなかめさせ給けり

めくりあはんかきりたになきわかれかな（97ウ）」空行月のはてをしらねはとてをしあて給へるそてのけしきもかきりある世のいのちならぬはけにとやおほしめさるらんあまりまはゆけれはみき丁をひきよせ給てやをらいらせ給まきらはしに

月たにもよそのむら雲へたてすはよなよな袖にやとしてもみんなをさりにいひすて給なくさめはかりもけになかくし思ひはなれぬほたしともなりぬへしさふらふ人々なとをも御らんすることのたえはてなんするをあはれにおほすにとみにもいて給はすはかなしことともあはれにきかまほしき御けはひにてあはれ（98オ）」に心ほそけなることなとをのたまはすれはみたてまつる人々もかう世にめつらしき御よろこひともおほえす袖もぬれわたりつゝ月もいりかたになりにけりいまはかるくしき御ありきいとあるましきことなれはさのみあかさせ給はんもひんなくていて給御心ちなをせりつみしよの人にもとはまほしうおほされけりまた

夜はふかからんとはおほしつれとあけにけるなるへしこひくさつむへきれうにやとみゆるちからくるまともゝあまたやりつゝけゆきちかう御くるまなともいたうやつし給ていと人すくななれはにやはゝかるけしきもなうけちかきほと（98ウ）」にのりなからすくるにもおそろしきまてにおほさるれとおもふかたさまへゆかんすれはめとまり給てなをみをくらるゝになにのすかたとも見えす物くるをしけなるさまともをさしも思ひしらぬにややすらかにのりなしてこのころわらはへのくちのはにかけたるあやしのいまやううたともをいとしらくしきこゑともにうたひてすくるけしき心をやりてないかしろにおもふ事なけなるにつけても

なゝくるまつむともつきし思にもいふにもあまるわか恋草はとそおほしけるかくて八月廿日に御くにゆつりありけりかねてよりよにめ（99オ）」つらしかるへきことにあめのしたいひふるしつれといまはとかはりゐさせ給ほとのありさまなとはなをうつゝともおほえさりけりなにこともひとへに思ひきこえさする人はなかりつれとことかきりあれはおなしさまにうちつれ給つゝいていりし給つる人々はあさましとのみおほさるゝにみなしにや御かたちありさまもかうては又やうかはりてめつらしきひとりさしそひ給てたゝ人にてすくさせ給けることかたしけなうそ見え給ける大とのも関白は左大臣にゆつりきこえ給ておりゐのみかとのくらゐにさたまり給ぬはゝ宮おは皇太后宮とそきこえさせ給けるかうおほしかけさりし御ありさまともゝさるへきことゝはいひ（99ウ）」なから一条の院の御心さしのをろかならす覚ししらるれは一品の宮をなををろかに思ひきこえさせ給ましくほり川の院にはきこえさせ給てとくまいらせ給へくきこえさせ給へと心より外に時々も見えたてまつりしたにやすからさりしを今はなにしにか雲のうへまて人わらはれにおこかましきありさまをあらはしはてんうき世のなかもかゝるつゐてにこそは思はなれめなとの給はせてまいらせ給はん事はおほしかけたらねは一条の院きかせ給ていとあるましうなをくしき御心なりとむつかりきこえさせ給ひてたゝいたしにたてまつらせ給へはいとむつかしうおほしなけきつゝ（100オ）」そのよにもなりぬるにつらきところおほくはなさしとやおほしけんひめ君の御かきりを御めのとたちなとそへたてまつらせ給てまいらせたてまつらせ給ぬさふらふ女はうなともはかくしうしらねはまいてとの人々まてはとまらせ給ぬるともえしらさりけりみかとはれいの御けしきのわつらはしけなるをいかにとはおほしなからさまかはりたるありさまをいかゝみ給はんとはつかしきかたも心ゆるひもなくおもひきこえさせ給へは心ことにひきつくろひてまちきこえさせ給に御心ちれいならてとまらせ給にけるかはりにひめきみなんひとゝころまいらせ給けるとそう（100ウ）」するをきかせ給もいとあやしくほいなき心ちせさせ給へはいてやいとおもはすにあまりかけくしき御心はへをみまうくのみおほえ給けりをくりをかれ給らん御ありさまのあはれにゆかしうおほしやらるれはやかてわたらせ給へりひいなをしすへたるやうにちいさくうつくしけにてゐ給へるを御らんしつけたるにもまつかきくらさるゝ心ちし給ていかゝはせんかうまておほしゆつりにけれはいとゝをろかならすこそはおもひきこえさせ給はめすむ人あまりなくてうちわたりなとつれくなるへきを心やり所にもてなし給へなと御めのとたちもの給はせていと心（101オ）」くるしけにそおもひきこえさせ給へる宮のとまらせ給にけることを一条のゐんにもきかせ給にけれはいと物しうおもはすなる御心のほとゝ返返きこえさせ給けれといかにもくおほしそめぬることはなをらぬ御くせなれは御心ちいとなやましうおほされてなとそきこえさせ給けるうちよりも日をへてうらみきこえさせ給へとかやうにもてなさせ給てをさく御かへりもなかりけりこうきてんには日ことにわたらせ給てさうのことなとをしへたてまつらせ給にいとさとくうつくしうひきとり給つゝなにこともすくれてみところあるさまにおいゝて給ぬへき

をあ（101ウ）」はれにうれしうおほしめさるゝにつけてもあらましかはこゝろやすきわたくしものにてましらはせまし物をなとわすれかたく思いて給こといやまさりなりかうのみこの御まいりのすかくしからすわつらはしかりつるにはゝからせ給てかのなくさのはまもいまゝて御らんせねはいとと心もまきるゝかたなう物なけかしきをいまはさりとてもさるへき事ならねはさいしやうの中将にもまいらせたてまつらせ給へきさまにの給はすれとれいならすなやましけにし給へはいかにとみたてまつり給ひてさやうにそうし給をきかせ給てもいとゝしつ心なうおほつかなう（102オ）」おほしめさるゝまゝにとみによるのおとゝにもいらせ給はすはかなきことふえさるへきふみともなと御らんしつゝこよなうふかして御とのこもるやうなれと心もとまらさりしみちのほとりともさへおほしいてられてあかしかたし月いとあかきよはしつかたにおはしますにくまなうさしいりたるを御らんするにもかのよなくそてにとの給はせし御けはひまつ思ひいたされ給ていみしうこひしうおほえさせ給にさやかなりつる月かけもやかてかきくもる心ちせさせ給ていとゝこゝろもそらになりぬ

恋てなく涙にくもる月かけはやとる（102ウ）」そてもやぬるゝかほなるむら雲もはれていつめるをいかやうにてかたゝ今御らんすらんとゆかしうなとやうにてちかうさふらふ殿上わらわをたてまつらせ給つれはけに雲のうへはまいていかにとおほしやらせ給へる秋の月かけなれはをかしき御せうそくなれとまちみ給はんけしきはつかしうおほしやらせ給へといまは人つてにきこえさせ給はんもあるましきことなれは

あはれそふ秋の月かけ袖ならておほかたのみはなかめやはするとはかりほのかなり御使にきくのふたへおりものゝうちき給はせたるをかつきなからまいりたるかしらつきなと月にはへ（103オ）」てうつくしきにめつらしき御うつりかさへなへてならぬにほひうちかほりたるそいとこひしうおほえさせ給て人めもしらすひきよせて涙もおとしかけつへくおほしめさる御ふみのけしきなともたゝおほかたにおもはせたるなつかしさをはをろかならぬさまにいひなさせ給へるさまなともさしむかいきこえさせたる心ちのみせさせ給ていととおほとのこもるへくもなけれはえむしろうのうちとひとりこたせ給てうしよつと申まてもなりにけり心やすかりし御ありさまにてたに身を心ともせぬよのなけかしさをおほしあつかひしにいまはいとゝさまくにつけてたち（103ウ）」まふへき心ちそせさせ給はさりけるかやうなる御けしきを一品の宮かたに心よせたてまつるうへ人なとはつきくしうみなしたてまつりてあはれけにかたりきこえさすれともとよりものおもはしけなりし人くせにいとゝ宮の女御のまいらねはとをこかましうそきかせ給にける御つかひもたえすきこえさせ給へと御ものうらみのかきりにもあらすすきにし御ありさまとものやうにいつとなうなやましうおほさるゝおりくあれはされはこそえなかうしもあらしものをと物心ほそうて御かへりなとは中くなつかしけにきこえさせ給へとまいり給はん事はいとゝおほしたえてあまにならせ（104オ）」給はんことをおほしいそきけり宮の女御の御こゝちはたゝならぬさまにと人々見たてまつりなして大宮にもけいしてけれはかのしのふくさの御事はかりをこそさはかりもきかせ給へわか宮の御ことなとはたしらせ給はぬにかうめにちかくあさやかなる御ことをめつらしうれしういかてかはおほしめされさらんこの御こととのちよりこそあさましうおほしうかれたりし御けしきもすこしなをりかうありかたき御くらゐにもさたまり給へるにいとゝをろかならさりける御すくせのほとさへみつへきことゝ院なとのおほしよろこひたるさまそ今よりいとこちたかりける（104ウ）」うちにもかうとそうせさせ給けれはいとゆかしきことをさへそへておほつかなさもわりなく覚しめせとこの月いむへしなとあれはしのひすきさせ給て十月にそ神わさなとしけゝれとあなかちなるひまに

まいり給へる御つほねは藤つほなりすみそめにやつれ給へりし御ありさまたにみたらし川のかけにもならひきこえさせ給ぬへくありかたかりしをもみちのにしきにたちかへてまいり給へるはいまひとしほの見ところまさり給へるにおほつかなくてすくさせ給つらん日かすもうらめしうそおほえさせ給けるかゝるほとはすこし御心ともゝなくさむやうなるに（105オ）」又いかにそやたゝそれかとまておほえたてまつり給へる御かたちけはひにもふとおもひいてられさせ給かたつかたはまつむねふたかり給てこのよのうちなからみたてまつらすなるへしとはおもひかけさりしわさかなとおほしつゝくるほとはいかはかりみるともあかぬ御ありさまをさしをいてつく〳〵となかめいらせ給て

かくこひん物としりてやかねてよりあふことたゆとみてなけきけんとおほさるゝにつけてもくらへくるしき心のうちはなをいとわりなしさるはさまことにうちなやみ給へるけしきのらうたけさなとにもたちならふ人あらましかはい（105ウ）」かに心よりほかにくるしうむつかしからましことをそいたくふるさすなりにけるもきしかたさへうれしきまてたちはなれすおきふしかたらひきこえさせ給へりとしころいかさまにしてたまさかもかよはしみたてまつるわさもかなとおもひねかひ給へるかんたちめみたちなとかうおほやけさまにならせ給てはなか〳〵いなひさせ給はぬやうもありなんわつらはしかりつる一品の宮さへかうそむき給へるなるはあこの御すくせのめてたかるへきなりをの〳〵御むすめともをいとゝもてかしつきて大弐の三位なとして御けしき給はる人々おほかりけりそのなかに人しれぬさまにてたえ給（106オ）」にしもいとさまてはあらねとさやかなりし月かけもしはともし火のひかりなとやうにてもすこし心にくきあたりともおほつかなきもすくなうゆかしきことなかりし御心のうちなれはかうていつしかとかる〳〵しうそれなととりわかせ給ふへきならねはたゝかくてもなかうしもあるましきありさまなれはなにこともつつましきをいましはしもなからへはさやうにてなんとのみいらえさせ給ものから人しれぬ心のうちともはいとゝうらめしう思ひいて給ふわたりもあらんかしいとかうものなけかしき身ならましかはなとかはかゝるおほかたなるありさまにてはみさらましとさすかに心くるしうお（106ウ）」ほしやらるゝ所〳〵もあれといてやこのよもあの世もおもひしことゝもはたかひはてぬるかはりにてはかうなからもさやうにみたりかはしう心をわくるかた〳〵たになうていま二三年たにすくしてはいみしからむほたしともをもふりすてゝよをそむきなんとそおほしけるしも月は五せちなといふことゝもにより女御まかて給ぬへきをくちおしうおほしわひつゝもなとかうやすからぬ身となりけんとのみおなしことをの給はせつゝゆるしかたけなる御けしきなれとけにかきりある御身なれはさのみもえおしみはてさせ給はてまかて給ぬるなこりもいとゝいねかてにていとわりなきそあま（107オ）」りまきるゝかたなきはなくさむことなきにこそとおほししられけるはかなうとしもかへりてかものまつりのほとにもなりぬれは御けひのこせんともつかひなとさためさせ給ふもすきにしかたのことゝもおほしいてられて斎院のわたりつねよりもこひしうおほしやらせ給におほかたの殿上人なとのしつゝあまたまいらせしあふきともはさる物にてみつからの御れうなとは我御心とゝめてせさせ給つゝたてまつらせ給しをのみもたせ給へりしかはおほやけしき所なとにてのあら〳〵しきにてはあらてさるへきくら人ともうけ給はりつゝ日ことにかはるへき女はうのれうともなとさま〳〵に心ことにせさせ給さま（107ウ）」心ことにめてたしなともよのつねならぬさまにしたてさせ給て

なをおしみ人たのめなるあふきかなてかくはかりのちきりならぬにと御れうなるはへちなるつつみかみにかきつけさせ給ても院なともこそ御らんしつくれとおほしかへせとしとろもとろにやおほしなりぬらんひきもかへさせ給はすなりぬ御つかいは五ゐのくら人にやあらんおほしや

らせたまひつるもしるく院のおはしますころなれはつかひかひ〳〵しくもてなさせ給あふきとものめもをよはぬをあまりおほやけしからぬ物ともかなとめてさせ給に又へちにて心ことなるは御まへのとみゆ（108オ）」るにかきつけたる事も御らんしつけたれといとかはかりおほくのとし月をへておほしこかれまとふ御心ともしらせ給はねはたゝおほかたのことをの給はせたるとのみ御らんして御てをのみめつらしからん人のやうに袖のいとまなくをしのこひつゝめてゐさせ給へり斎院はなまくるしくおほしめさるれと御かへりとく〳〵とのみきこえ給へはおほしもあへすたゝ

あふきてふなをさへ今はおしみつゝかはらはかせのつらくやあらましとあるを御らんしてもれゐのこゝろをのみそつくさせ給ふまつりの日こんゑつかさのつかひのしたてゝまいるをうらやま（108ウ）」しくみをくらせ給て

ひきつれてけふはかさししあふひ草おもひもかけぬしめのほかかなおほしつゝけてなかめさせ給へる御まみなとのなをこくわうときこえさすともあまりけたかうなまめかしうみえさせ給へりかくて藤つほの女御御けしきありて院のうち所なきまてほうしもそくもよにあるかきりはたちこみてゆすりみちたるにうちの御つかひもあめのあしよりもしけゝれとゆきかへるほとも心もとなくいかに〳〵とおほしめしやらせ給にいとたいらかにおとこ宮にてなんときかせ給御心ちをろかならんやはまいてめにちかく御らん（109オ）」しあつかひきこえさせ給ほり川の院の御けしきことはりも過てかきりなき女御の御さいはいとみえたり一品の宮のひめ君の御ことをたによのなかの人はしらねはたゝこれをはしめたる御ことゝおもふにいみしうともわかみやの御おほえはいまはいかにそはうにゐ給はんこともさはいふともまことのたうたひの今上一宮をはえをしきこえ給はしなとまたしきにきゝにくゝさためきこゆるをさかのゐんにはけにいかゝときかせ給ふそおこかましきやこの宮の御うつくしさのなのめならんにてたにうち〳〵のことしらせ給はぬ御心ともにはけにゆく末もおもひをとし（109ウ）」きこえさせ給かたけなる御けしきともなりたゝ大宮院なとの御ひさのうへにとりかへ〳〵あつかひきこえさせ給へるさまけによの人の物いひもかなひぬへきにやとみえたり大弐の三位なとそうちにまいりつゝかうかたはしなかりぬへき御おもひともになんとそうするをきかせ給にも一の宮の御おりよそのことにうちきゝてすくしゝにまれ〳〵中なこんのすけのほのめかしいてたりしよりあさましうかなしううつし心もなくなりそめてかのたつの一こゑきゝつけたりし雪のよのこともまつおほしいてらるゝにかはかりもわか物とみたてまつるはあるへかりしことかはわかとしころおもひゆつるかたも（110オ）」なくこゝろひとつにあはれにかたしけなく心くるしきかたにも又あかすくちおしき人の御こととのとし月ふれともすこしもおもひなおされぬ心のうちのかはりにもとりあつめて今行末いみしき人いてくともひとしうたにおもふへうもあらぬものをいまよりかうさへ人のいふらんをもしみゝとゝめてかのわたりにもきい給やうもこそとくるしうおほしつゝくるおりしもおとなひ給まゝにあたりもひかるはかりの御かほつきにてさしいて給へるをよひよせたてまつり給ひてゆら〳〵と女のやうにきよらなる御くしをかきなてつゝほり川の院には二の宮をうつくしかりつ（110ウ）」き給て宮をはひさしうみ給ぬこそ心うけれなまろよりほかにかきりなう思ひきこゆる人のなきこそあはれなれとの給はするをとしのほとよりもこよなうをとなひしつまり給へるけにやけにとおほすにすこしなみたくみてまゆのわたりもうちあかみてうつふし給へるかしらつきかみのかゝりひたひつきなとはかのむかしほのかなりしほかけにもいとようおほえ給へりかしと御らんするにわれもなみたこほれさせ給ぬかやうなるありさまにつけてもさりともみなをい給心のほともありなまし物を行すゑはたかかる人もあれはうきよをとおほさるへうもな（111オ）」かりける物をいか

にしないてし我心そとたゝ昨日けふのやうにくやしうあはれなることそなをかきりなき御すゝりのあいたるふてをとらせ給て

かなしさもあはれも君につきはてゝこは又おもふものとしらぬをとかゝせ給てみせたてまつり給へはさすかにうちゑみ給てこれにはかならすをとり侍りなんかしとてうちそはみてかい給ふてつきなとの女宮にそせまほしけにみえ給

ことはりもしらぬなみたやいかならんわれよりほかに人をおもはゝとかい給へるを御てのう（111ウ）」つくしさをことはりそかしたれにゝ給てかはなにこともなのめにはと御心にもことはられさせ給にこの御しらぬなみたはあはれにおほしめさるれとさかのゐんのおはせむほとはこの御心にもいひしらせたてまつらしとおほすなるへしさしも御心とまらぬわたりにたにおとこみこむまれ給へるに行幸あることはつねのことなるにまいて大宮をみたてまつらせたまはんこともいとかたけれはさまくに心もとなからせ給て七日すくるまゝに行幸ありひさしうみたてまつらぬ事をなけく人たかきもくたれるもあまたありてこのほとたにとたちこみたるものみく（112オ）」るまともゝこちたきまておほかりひさしう御らんせさりつるしつのいほりともゝ又たまさかにたちより給しいもかすみかのまきのとゝもゝあはれにすきかたくみいれさせ給にゆへなからぬけしきしるくさはかりにやとみゆるさしほくるまとものまへはいかにつらき心と見給はんとおほすもくるしうてしりめはかりたゝならてすきさせ給をけにあるへきものをと中くにあかすかなしうおほさるゝ人そおほかりけるまちつけきこえさせ給へる院のうちにもかみしもめつらしきみゆきをみたてまつりよろこふにまいて大宮はいまくしきまてな（112ウ）」みたもろにおはしますなにやかやと御物かたりしはしはかりにてそわか宮みたてまつりにはわたらせ給けるいひしらすうつくしき御かほつきなと一の宮にたかひきこえさせ給はすおなしさまにてうちふさせ給へるはものとしらぬをとかやの給はせしかとけにこれもをろかには思ふましかりけりとそ御らんしける女御はまたいとなやましけなる御けしきにてあへかにほそり給へるいとゝ心くるしくあてにらうたけなることまさり給てみをきかたおほしめさるれとくれぬれはかへらせ給ぬ院のへたうけいしともなとれいの事なれはかゝいしけりかうおもふさまにめてたき御ことをき（113オ）」かせ給にも一品の宮にはものをのみおほしなけくけにや御心ちまことしうくるしからせ給てつゐにあまにならせ給ぬるを一条の院にもうちにも返々くちおしうあはれにおほしめすにいくらはかりの日かすもへてうせさせ給ぬれはいとあさましうかなしうおほしめすなかにもうちには心とけて過給ぬるを心くるしうかはかりみしかゝりける御いのちのほとをなとてさしも見えたてまつりけんなとれいのすきにしかたしのふ御くせなれはつねよりことなる御涙もろさなりされと宮の女御きさきになしきこえさせ給てわか宮ひきくしてまいらせ給へるを御らんするにはさのみ心ふかき御心（113ウ）」といひなからもやうのものといかてかはしつみいらせ給はん露はかりわく御心なくてこのよにはすきはてゝのちのよにもおなしはちすにとのみいひちきらせ給つゝあけくれさしむかひてたゝ人のやうにてすくさせ給御ありさまいにしへにたとしへなきもたゝ此御さいはいのなのめならさりけるとそ世の人いひおもひける月日もはかなうすきて宮の御はてなといふことゝも過てまたのとしの秋冬はおほはらのかすかもひらのなとの行幸ありはしめてめつらしきみゆきなるにそへてもみかとの御かほかたちありさまこのころそさかりにねひとゝのほらせ給て（114オ）」すこしもなのめならんことはあかすくちおしかりぬへき御ときなれはにやあなかちにものこのみする人おほくなりてかんたちめ殿上人なとの御むまくらのかさりとねりのむまそひのなりかたちなともよにめつらしきさまにとたれもおもひいとなみ給へれはみところもこよなきをいかなる人かはまたみぬはあらんと

ほり川の院にはひわたらせ給しほとをたにたちみたりしものみくるまのこちたさなれはまいてたひことにあかすみたてまつらまほしきまゝにれいにもたかひて心あはたゝしきみちおほちのさまなりかもの行幸は九月つこもりなれは（114ウ）」のへのくさともゝみなかれくになりてみちしはの露はかりそ見しにかはらぬ心ちしけるこゝろはゆかすなからもあまたゝひゆきかへりしそのかみはなにことをおもひけんとこひしうおほしいつるにれいのかきくらさるゝ心のうちをもしらすかはわたらせ給ほとはかよ丁のこゑくもきゝにくきを身もなけつへきかはのちきりをなとかういふらんときかせ給

おもふことなるともなしにいくかへりうらみわたりぬかもの川波なめけなる心のほとはきしかた行末もこよなうおほゆるを露はかりおほしとかめすかうあるましきさまにさへしなし給へる（115オ）」神の御心はおもへはかたしけなくありかたく思ひしられ給をひとかたにしもみえかたふのみなり給けるのみそ猶さらにうらめしくおほえさせ給かみのみやしろに御はらへつかうまつるにも過にし年たて給し御くわむかなひ給てけふまいり給へる御さまいまよりのち百廿年のよはひをたもたせ給へき有さまなときゝよういひつくるはけにあまてる神たちもみゝたて給らんかしときこえてたのもしきにもさしもなかうとはおほしめさぬ御心のうちにはうれしかるへくそきかせ給はさりける

やしまもる神もきゝけんあひもみぬこ（115ウ）」ひまされてふみそきやはせしそのかみにおもひしことはみなたかひてこそあれとそおほしめしける十月かみの十日はひら野ゝ行幸なりけりこのたひはもみちのさかりにてはゝそはらをかしうわけいらせ給にも山もみなくれないなるをみわたさせ給にもしのひつゝ御らんせぬところところはすくなかりしかは北山のわたりほうをんしそてぬらすさい相のかよひ給しところなとはをかしかりしもおほしいてらるゝに木すゑの色もひことに見やらるゝをけふりもところくにたちふもとをこめたるきりのへたてもたとくしきは中くいとこひしき事おほく御らん（116オ）」しわたすに斎院のわたりのもみちもいみしうさかりにて色々にしきをひきちらしたるやうにみわたされたるにみねのあらしのあらくしうときくふきわたしてちりまかひたるなとゑにかゝまほしうをかしきをさしもおもふあたりならすとも心はかりはあくかれ行ぬへきにいとゝひとつかたになかめいらせ給へり

神かきは杉の木すゑにあらねとももみちの色もしるく見えけりと御らんするもかひなしふなをかのまつのあけくれさしむかひたりしをめつらしきともとおほしなくさめてたちかへらせ給もあかすわりなうやかてひきよかぬわさも（116ウ）」かなたゝいまなにことをしていかやうにてかおはしますらむなとみたてまつらまほしうおほしめさるゝにたましゐはやかてあくかれぬらんとまてそかへりみさせ給ふ

あれとみる身は舟をかにこかれつゝおもふ心のこはゆけるかはなとやうにのやまかはのそこを御らんするにつけてもおほしゝみにしかたさまのことはさらにわすれさせ給はすかつみる人の御ありさまのめてたうおもふさまに御らんせらるゝにつけてもわか御すくせのめてたかりけるはかたくにつけつゝなのめならすおほしらるゝものから御心のうちはいかなりともさらにやすかりぬへうも（117オ）」なかりけりこきてんにひとりすみ給ひめきみの御ことを心くるしうおほしあつかひつるに宮うせさせ給てのちはほり川の院も大宮もつねにわたらせ給つゝみたてまつらせ給にいとはかなうみちしはの露のかたみとまきらはすへうもあらすなまめかしうをかしけなる御かたちはにたりけんはゝ君のさまさへおほしやられていとあはれにかたしけなふ御らんせらるれはいまゝてあるましき御なさしもあるましきことなるを一の宮の御けんふくあるへきにやかて御裳きのことおほしいそかせ給けりなにこともおほやけさまにも

あらすほり川のゐんのいそかせ給へはよのためし（117ウ）」にもすはかりなる御いそきのありさまなりときはのあま君のむすめゝのとたちなとよりほかは宮の御もてなしのあなつらはしけにおほしめしたりしかはさふらふ人もうちうちにはなまいかにそやおもひたりしかといまはかみしもさなからこの御方にまいりあつまりていとやんことなくまことしき人あまたそさふらふ一条の院にもむかしこ宮のあはれにおほしあつかひたりし御事御らんししりにしかはかたみにもたれをかはとおほしめしてかゝる御いそきをもきゝはなたせたまはす心ことなる御さうさくともあふきたき物なとやうの物をそ御心さしのしるしにてたてまつら（118オ）」せ給けるそのよのありさまかきつつけすともおもひやるへし二宮の御はかまきもこよひなりけれはよろつさしあひてさま〳〵めてたきことのみあまりなれはせう〳〵まねひたらんは中〳〵そこなはるゝこともありなんかしよろつのことときよらなるなかにもさま〳〵をとなひさせ給へる御ありさまともそなを〳〵すくれてみ所おほく見えさせ給けるなかにも一宮の御ありさまのゆゝしさはなをいつくにいかなりし人そとむねうちさはきてあはれあさからぬ御心さしすくれたりかのみちしはの露とかすならすおほしあなつりしなこりともみえぬ御有さまをもこよひやかて（118ウ）」一品の宮にさへなしたてまつらせ給つおもひかけすあさましかりしみちゆきふりに心うかりしのりのしのはしりしあしもとなとたゝいまの心ちしてめつらかにもあはれにもおほしめしいてらるゝことおほかるにこよひの御ありさまをみたまはぬくちおしさそ猶々あさからすおほしめさるゝことおほかるにこのよにはとかやありし夢さめてもしいかなることのありけるそなとはしめて心えかたう思ひまとひしあか月よりうちはしめかうまてわかものとみるへきやうもなかりしよりいかゝはせんに思ひよはりてみたてまつりし人さへひとりにうちまかせてわれはうせ給ぬるもおもへは（119オ）」さま〳〵にはかなうあはれなる世なりやなととりあつめなみたこほれぬへきをいま〳〵しうおほしかへさるへかめれとなにことのおりもまつ心のうち物あはれなることはたゆへうもあらぬ御有さまともなり一宮をはひやうふ卿宮とそきこゆへきなめる又の日そさかのゐんへはまいり給ける御まへにてよろつにつくろひきこえさせ給へる御さまのうつくしささらにねひゆかん御ありさまをしはかられてあまりゆゝしきまて御らんせらるゝをさりともむけにはみはなちきこえさせ給はしかしとたけうおほさるゝものからいかはかりの御心にてとし月ふれとかはらぬ御心のつれなさならんとけふ（119ウ）」はいますこしうらめしさもたくひなけれはくものかよひちさへあとたえてのちはいとゝやるかたなき心のうちなとはかりにこまやかになりぬれとよへの御ありさまひとりみ侍しもあはれなる事おほくなとやうにて

としつもるしるしことなるけふよりはあはれをそへてうきはわすれねさりともとみ侍ありさまをけふは御らんしいれさらんもひか〳〵しうなとかゝせ給てれいのしのひてをときこえさせ給へはひきかくしてたち給ぬるなこりもなみたほろ〳〵とこほれてなかめさせ給さかの院にもまちつけさせ給ていかゝはなのめにみたてまつらせ給（120オ）」はむかうてはいとゝうちのうへに露はかりたかひきこえ給へることもなきをあさましうあまてる神のほのめかし給けんこともあるやうあるにこそとおほしめしやるかたさまにも故宮の御ためそいとをしかりけるれいのさほうにはいしたてまつり給て入道の宮の御かたにはたゝまいりてさふらひ給そあはれなるやしのひてありつる御ふみまいらせ給をかゝることゝもほの〳〵きこえいててうちさゝめきあやしかる人もおほくなりにたるにいとゝさま〳〵物おほしなけく事いみしきにけふの御さまはいととこと人とさへ思え給はぬおもかけのはつかしさゝへわり（120ウ）」なくて御らんすへきやうもなきにましてけふしもあはれそへさせ給へきにもさき〳〵はひたふるにせめきこえさせ給し御かへりもいまはかうのみくる

しけなる御けしきを見しり給へはなを〳〵ともえ申給はぬものからけふはかならすとの給はせつる物をいかにほいなくおほしめさむとかたくにくるしうおほひたるをいつもののとすけなとはかりそみたてまつりしりたれは人しれぬなみたともをおとしける世のなかのいとうらめしうおほされてうちにかへりまいり給へれはふちつほにそおはしましけるやかてそなたにまいり給た（121オ）」れははしつかたにいてさせ給てさて院はいかゝの給はせつる宮の御まへには御らんしいれつやなとのたまはせてつきせすうつくしとおもひきこえさせ給へるさま院のおほしめしたるにはこよなくまさらせ給へるも心しり給まゝにわか御心にもをろかならすおほしらるへし御いらへなときこえさせ給ふさまもほとよりはおとなしういまよりはつかしけなる御さまにていたうしつまり給へるけしきなともいまよりはこのわたりあまりならはしきこえんもわつらはしうおほしめさるれはれいのやうにうちにいり給へとものたまはせてありつる物はいかゝなり（121ウ）」ぬるなとしのひてそきこえさせ給まいらせ侍ぬとはかりにてかへ〳〵しき御けしきもつねのことなれとおほかたにつけてもいまはいとかうしもひたやこもりになさけなうやはもてなし給へきと人わろきまてつらうおほしめさるゝにいかていまよりたにかはかりもきこえさせおとろかさしと返々おほしかたむれとたゝいまもさしむかひ給へる御ありさまのなのめならぬあはれのゆかりにはなにゝかそれしもこひしういかゝおほしいてきこえさせ給はさらんとはかり物もの給はてなをたちかへる心かなと御心にもあらすしのひやかにいはれさせ給ぬるを中宮はほのきかせ給て（122オ）」猶もてはなたれたる御なかにはあらさりけりと心えさせ給ふ

たち帰したさはけともいにしへの野なかの水はみくさゐにけりいかにちきりしなとてならひにかきすさひ給にちかくよらせ給へはいとゝすみをくろくひきつけておましのしたにさしいれさせ給をかはかりなるなからひにさへなをはかないことにつけてへたてかほなる御こゝろはあまりなるをならはし給なめりなとてひきいてゝ御らんしてありつるしのひことゝもの御みゝとまりつるやましりたりつらんあまりまきるゝかたなけれは心のうちもみしられたてまつるそかしとおほ（122ウ）」ししらるいまさらにえそこひさらんくみもみぬ野中の水の行ゑしらねはとかきつけさせたまひてみとかむへき御ふてのすさひにはあらさめれとおもふにわか御こゝろにはなに事かはとこゝろときめきしてかいて侍そとてみせたてまつらせ給ふものからかやうに人にもいはせたてまつりわれもはかないくちすさひにあるへかりし人の御事かはなとおほすにわかあやまちのいとをしさもれいのつみさり所なうなみたさへおちて人にもとかめられさせ給ぬへきまきらはしにさかの院のあなかちにおほいたりしあまりにな（123オ）」へてならす思ひかしつききこえ給へりし宮の御うしろみにとさへおほしたりしかといまゝてよにあるへきものともおもはさりしかは見しらぬさまにてやみにしこそおもへはひか〳〵しけれとむかしよりしてけふいまにもこのかたさまにつけてはいきなから仏になりぬへかりし物をみたてまつりそめしよりこそはこのよをすてかたいものに思ひなりにしかあはれにあちきなひことなりやかゝれはこそ仏のしかふせつとの給けれとてそなみたくませ給ぬるひやうふ卿宮月日のすくるまゝにうへの御かたちありさまにたかひきこえ給ところなうめてたくおはすれは春宮にまいらせむとお（123ウ）」ほいつる人々の御むすめともゝかゝる御かたちをよそにはいかゝみたてまつらんとおほしなりつゝうちにもほのめかし申給かんたちめあまたものし給なかにもかのよしのかはあまたゝひいさめ給しいまひめ君の御よすかとなり給へりしさいしやう中将はこのころは一の大なこんにて春宮大夫かけてそものし給にしくにのすりやうそとてはゝしろにいりもまれ給しかとやかてそのあたりをもとりはなちて又なうあはれなるこゝろさしにおもひかしつききこえ給しかは

かたくなかりし御心もをのつからもてかくされてあまたとしもすきにけれはいとをか（124オ）」しけなる御こともゝおほかるなかにおほい君すくれ給へるを大なこんはいかにまれまつ春宮にたてまつりてかならすきさきにすへんとおほしの給をはゝ君はむかしほいたかひてみかとをもえみたてまつらすうと〳〵しうなりにしかはりにこのみやをたにけちかうこそあらせたてまつらめとからうして御心つようの給へはまれ〳〵はか〳〵しうおほしたらんことをたかへきこえしと大こんもおもひなり給へるにや一品の御かたよりもつたへそうせさせ給けりかの木丁のほころひあらそひしけはひともゝたゝ昨日けふのことにのみ思ひいつるをわれも人もかやう（124ウ）」の事いひかはすはかりのすゑ〳〵あまたたちいて給まてなりにけるよとあはれにもをかしうもおほしいてらるゝ心のかきりもてかしつくらんひめきみのありさまいかならん大なこんはおほかたのをきてはかりにこそあらめこまやかなるゆへゆへしさなとははゝ君のをしへのまゝにこそあらめそれを見くるしとおもはんには大なこんもさてはありなんやなに事もあら〳〵しうこゝろをやりてうちはやりたる人からなれはそかしとおほしやらるゝたにいとうしろめたうわりなきにひわのねをひきつたへてやあらんとおもひやらせ給はひとりゑみせられさせ給て（125オ）」かへ〳〵しうそいらへさせ給はさりけるいとわかきほとにあまりさたまりゐん事はくるしうおほえしをいまことしらいねんすきなはえかうてもあるましけれはさやうのほとにたれも〳〵まいらせ給へとその給けるきりつほを女御の御しつらひなとのやうにめてたうきよらにせさせ給て女はうなとのかたちすくれたるかきりあまたさふらはせ給てそおはしまさせ給ひけるほり川院にもうへのはやうおはしまいしかたもおなしさまにていてさせ給ふおり〳〵はもてかしつききこえさせ給へるさまなのめならす中宮もかの御心さしありてつく（125ウ）」らせ給し三条殿にいまはいてさせ給へはこのゐんには一品の宮のおはしましところなとをそ返々みかきたてゝあしたゆふへのいとなみにはこのふた所の御ことをおほしめしたるさるはわたくしの御心ともには二の宮の御おもひにならひ給へきやうもなけれとひやうふ卿宮の御ことをはうちのなをすくれておもひきこえさせ給へれはうはへはをとらせ給こともなし一品の宮も今はをとなひさせ給にたるを春宮はむかしより御心かはらすいまは御つかいしけうまいりつゝうらみきこえさせ給へとこ宮のおほむさまなとおほしあはするにもいてやなを宮たちはたゝ心にくゝ（126オ）」てやみ給なんこそめやすかるへけれわか御心をこりのほとよりはわれなからくらへくるしう心くるしかりし心のうちそかしまいてかうなかゝらさりける御いのちのほとにてはかやうに思ひいてたてまつる人なうてすき給なましいかにめてたからましとおほしめせはすか〳〵しうおほしたつへきにもあらさりけりさるははゝかたなとにつけても物たのもしうおもひうしろみたてまつり給へき人もなくてゆく末心くるしかりぬへき御ありさまなれとあすのふちせをしらぬほとはなにかはいとたちまちにとしもいそかせ給はん御めのとたちさふらふ人々よりはしめこゝろ（126ウ）」はせすくれうしろやすかりぬへきさまなと御あたりちかうもさふらはせ給なとしておほかたいとけたかうもてなしかしつききこえ給へるさまへてならすいとしもなかりし宮の御おもひなりしかととりむすめの御ことをさへかくもてなしきこえさせ給こと〻一条の院をはしめたてまつりてよの人もありかたきことにきこえさせしかとこの御もきのほとよりそかうにこそはありけれなとことはりにおもひけるかのゆくゑもしらすはてもなうおほしまとはせしみかはのかみもそのゝちは人しれぬ御心のうちにはこよなうおほしへたてゝしかとはゝきみのかたのおほえ（127オ）」すくれたるゆかりにはなにしにかはおもふことのすこしもたかはんとしはいとわかうて大弐にもなりにけれはやむことなきめともあまたひきくして思ふさまにてくたれとむかしのことゝもおもひいてられて物あはれ

なるにからとまりにてはたいとゝことといみもえしあへすうちなかれつゝ
　かへりこしかひこそなけれからとまりいつらなかれし人のゆくゑは
なとものゝおりことにありかたかりしさまかたちなとをうちとけかたら
ふ事たになくてやみにしくちおしさも又人をいたつらになしてつみふか
さなともわす（127ウ）」れぬにこの御裳きにのほりあひてきくにかうみ
ななへてのよにもさにこそありけれなといひさたむるにそあさましかり
けるあやまちもおもひあはせられていましも心のうちにかしこまりなけ
きつゝかけてたに思ひいてゝこひしのふこともせしかたしけなしとおも
ひなりにけるときはのあまきみはうせにしそかし心ちかきりにおほえけ
るおりいとちいさうをかしけなるこからひつをとりいてゝこれあなかし
こしのひて宮に御らんせさせ給へ御うふきぬやむかしの人のかきすさひ
給へりしゑともなとのやりすてんかおしかりしとも（128オ）」をとりい
れしなりむけにその人の御ありさまとてきかせ給こともなからんよりは
ものゝ心しらせ給なんに御らんせさせんとおもひしそとてむすめにあつ
けたりけるをうせて四十九日なとはてゝまいりたるにつれくなるひる
つかた御まへに人かちにもなけれはあま君のゆかしかり申つゝなくなり
にしありさまなときこえさするついてにしかくの物こそさふらへと申
いてたるをゑをなんいみしうかい給へりしなとさきくもきかせ給てあ
れをたにかたみにみはやなとおほしねかひつれはいみしうゆかしとおほ
したるもことはりなれは御（128ウ）」木丁ひきよせなとしてとりいてた
り御うふきぬのありけるをまつとりいてゝ御らんするにわかきたりけん
ものともおほされすものけなくあはれけなるにつけてもかはかりのほと
をひきはなちてもてさすらはせ給けんほとのかなしさうらめしさもいひ
しらすかなしうおほさるゝに
　人しれぬいりえのさはにしる人もなくなくきするつるのけころもと
さへかきつけられたるをみつけ給へる心ちいかはかりかはおほされけん
いと心くるしき御けしきを中将はなにしに御らんせさせつらんいますこ
しをとなひさ（129オ）」せ給てものゝあはれもおほしのとむはかりにて
こそとりいつへかりけれとさへおもへと我もしのはすかなしきことみと
ころあるゑともゝゆかしけれはかたはしつゝひろくるほとにをとなうて
うへのふとわたらせ給ひけれはなにとなくとりいれて中将はのきぬるに
ちかうものせさせ給ていとつれくなりつれは御こともひかせたてまつ
らんとてまいりつるなりいておなしうはきゝところあるはかりをしへた
てまつらんとのたまはすれとれいならぬ御けしきにてまきらはさせ給へ
といたうない給けるとみえさせ給へはおとろかせ給てれいならすおほさ
るゝ（129ウ）」かときこえさせ給へと御いらへもなうてたゝいとうつふ
させ給へるにこほれかゝりたる御くしのかゝりかほやうなといとゝらう
たけさまさらせ給へるもむかしの人とおほえさせ給へりあまりあやしか
らせ給もかたはらいたけれは中将そかのときはにさふらひしをい人のむ
かしみえ侍けるあやしのほくともとりをきてさふらひけるをうせ侍にし
のち御らんせさせよといひをき侍しをおもふ給へいてゝつれくのなく
さめにとりいてゝさふらひつるあはれなる事ともさふらひけるにやとそ
うすれはけにさもおほしぬへきことにこそはむかしの人のかはりには
（130オ）」さゝのわきはにてもたのむへきやうにいひちきりしかひなうか
きりのほとをしらさりけるこそほいなきことなれのちにこそみちすゑも
いひいてたりしか日つゐてなとえりけるとかいま一たひせうそこをたに
せてくちおしきことなりやそこのさふらはぬもつねのさとかちにめなれ
てとかめさりけるよこの御有さまもいみしうゆかしけにものせしものを
なとの給はせてありつるこからひつをよせさせ給てこれやむかしのあと
ならんみれはかなしとかや光けんしのゝ給けるものをとはのたまはすれ
と御らんするにみつからかきあつめ給けるゑともなりけりよになへての
（130ウ）」人のすることとも見えすありかたかりけるふてのたてとはいつ

れもみところありてめてたきなかにも世にありけることゝも月日たしかにしるしつゝ日きにしてさるへきところ〳〵はゑにかき給へりわか時々も御らんしそめしほとよりの事ともはいますこしめとまらせ給てあはれにかなしうおほしめさるゝことかきりなしみつからのありさまわか御かたちなともたかうことなうてうちしのひつゝたちより給しよなよなの月のひかりかせのをとなひよひあか月の空のけしきなとも我心にをかしうもあはれにもめとまり心をしめ給けるおり〳〵を（131オ）」かきあらはし給へるよろつよりもかの御心にもあらすつくしへくたり給けるほとの有さまはめのみきりふたかりてはか〳〵しうたにえ御らんしやらすうたともはあふきにかゝれたりしなとおなしことなれはとゝめつときはにかへり給て心ちすこしおちゐるまゝに思ひつゝくることおほくくちおしかりける身のすくせいとかなしわれとはおとろかしたてまつるやうもなく人はそこのみくつにこそはきゝない給はめいまは世にある物ともおほさすわすれもし給ひぬらんかしなと思ひ給けるほとにや

わすれすはは山しけ山わけもこて水の（131ウ）」下にやおもひいるらんこの宮むまれ給てのちいとゝものを思しいりけるさまいといみしう心ちもいくへうもおほえ給はさりけれは一品の宮にわたいたてまつりてんと思ひなり給けるありさまかなしなともよのつねなり御むかへにちある人なと給はせたれは心ちのくるしきをねんしいたきとりたてまつるになに心なううちゑみつゝ物かたりたかやかにし給かほに涙のとりあへすほろ〳〵とこほれかゝれは袖をかほにふたきてえたにみたてまつり給はぬに暮ぬしとくなといそけととみにふところよりもえさしいて給はぬにあま君御心ちいとくるしきには（132オ）」とかうなおほしいりそたひらかにてたにものし給はゝしのひつゝはつねにみたてまつり給てん行末なかうこそおほさめあなゆゝしとていたきとりたてまつる

ゆく末をたのむともなき命にてまたいはねなるまつにわかるゝとあるをみ給つらん宮の御心ちけにいかはかりかおほされつらんとおほしめすに又あまになり給けるにもいひちきり給しことゝもゝまつ思ひいてられ給ていみしうない給へるところに

をくれしとちきらさりせは今はとてそむくもなにかかなしからましうせ給ん事ちか（132ウ）」うなりてなるへし

なからへてあらはあふよを待へきにいのちはつきぬ人はとひこす

きえはてゝけふりは空にかすむとも雲のけしきをそれとしらしなとあるを御らんしはつるまゝにさくりもよゝとかやみたりかはしき涙のけしきを中将のちかくてきくらんこともあまりこゝろよはきやうなるとおほしつゝめとなくよりほかのことなし

かすめなよ思ひきえけんけふりにもたちをくれてはくゆらさらまし

をちたきるなみたのみをははやけれと（133オ）」過にしかたにかへりやはするなとかきつけさせ給て返々かひなうおほさるゝことかきりなけれは宮には御らんせんたひことに中〳〵涙のもよほしともなりぬへう又かの人のほたしにもいとゝかゝりぬへきものにそはへめるをこのひとまきはかりはすゝしきみちのしるへにもなし侍なんいまはとてもかくてもかひなき事をすきぬるかたの事なおほしものせそなときこえさせなくさめてこのゑひとつはとらせ給てわたらせ給ぬるをみやは心のとかにたにみすなりぬることとあかすくちおしうおほえさせ給てひくらしなきくらさせ給さまいと心くるしけなりうへは（133ウ）」ひとところおきふし御らんするにうみ山なみかせのけしきよりはしめ女のわさとは見えすかきすましたるふてのなかれひきこめてやみなんはくちおしうをかしきもあはれさも物みしらん人にみせまほしきを斎院はかりにはいみしう御らんせさせまほしけれとみつからならさらんかきりはさすかにめはなちにくき物を心のとかにをきたらんもあすもありとはおほゆへうもあらぬよにみるほとの心さしにはこれをたにとふらはんあるにまかせてもありぬ

へかりける身のほとをたゝわれゆへにこそはこのよをもいとひすてあのよのさまたけともなるらめとお（134オ）」ほしめせは我御もとにのこしをかせ給もいとをしうおほしめされて

過にけるかたをみるたにかなしきにゑにかきとめてわかれぬるかなとおほしめせとありしあふきはかりをのこさせてはみなこま〳〵となしてきやうのかみにくはへてすかさせ給ひてこんていのねはんきやう御てつからかゝせ給けりかのときはをもやかてみてらになさせ給てこの御れうのくとくをそこにてそ月日にそへてつくりかさねさせ給けるさかのゐんの御心ちなやましくおほしめされてほとへにけれとかうこそなと人にものたまはせすう（134ウ）」ちはへ御ときもさはかりをとらせ給つゝかせのいもゐはかりにて阿弥た仏にのみむかひきこえさせ給てたゝとくむかへさせ給へとねんしいらせ給へるを十よ日となりてはをき〳〵をきゐさせ給はすならせ給たるにそたれもみたてまつりさはきける一条の院のきさきひやうふきやうの宮なともこのころはひとつ所にあつまらせ給ておほしなけくさまともいと心くるしけなりみかとももとよりあるへきほとの御心さしはかりはあらぬ御なかなれはいみしうおほつかなかりきこえさせ給をゐんよりもいまいちとの御たいめんはかならすあるへき（135オ）」さまにきこえさせ給へりけれは八月一日ころに行幸あり院いみしくおほしよろこひてあなかちにおきゐさせ給てたいめんせさせ給へりみたてまつらせ給しころよりもいみしき御さかりにてあるへきかきりねひとゝのをらせ給へる御さままことにみたてまつらむにいのちものひぬへきをまつうちなかせ給て月比いとものの心ほそくてけふや〳〵とのみ思給なからかゝるみゆるをまち侍てなんなとのたまはする御さまもけにいとたのもしけなうよはらせ給ふまて御いのりなともさらにせさせ給はすをとなくて過させ給つらんこそいと（135ウ）」あしきことに侍れすこしもれいならすおはしまさんほとはあけくれつかうまつるへき物とおもふ給へしほいなくいまゝて見たてまつらさりけることゝてなかせ給をいとかたしけなうあはれにおほしめさるなにか今はおしむへきよはひにもはへらすなくなりなんのちにこのとまり給ふ宮たちをとふらはせ給はんのみこそうれしきことには思ひ給へきひやうふ卿宮いまはさりともいたつらにはなさせ給はしと御心さしのほともたのもしく思給へつれはいと心やすく侍入道の宮こそこのよをわかれんこともゝろともにとおほしねか（136オ）」ひ又みつからもとゝめんはこゝろくるしきことに思ひ給へつれとつゐにそのおもひたかひぬへきに侍めりおほしをこたらすとふらはせ給へおほやけとなり給ては中〳〵かやうにさひしきやとをおほしやらんことはかたくそ侍れとも御心のほとをみをきたれはたのもしうなん位をさり給てもこゝをあらさてかならすすみたまへなと申をかせ給へはなにこともおほしをきてんことはたかへさせ給ましきよしをきこえさせ給にくれぬれは入道の宮のおはしますなかへたての御さうしのくちによらせ給て御あふきをすこしならさせ給へは中なこんのすけきゝつけてまいり（136ウ）」たるもむかしの心ちせさせ給ていとゝ物あはれなりこゝのへのみやつかへむけにおろかになるもこのころはいとゝことはりとみゆる野へのけしきかなとの給はせてかゝるつゐてにたにみつからきこえさせては又いつかはとれいの心つくしなる御けしきもめつらしうてまいりてきこえさすれはつねよりもものおほしみたるゝ比にていとゝなにことをかはきこゆへからむとてうこかせ給はぬを院もかくときかせ給てみつからなをきこえさせ給へ人つてにはあるましきなりと御せうそこあれはいとうゐ〳〵しうつゝましけれとやかておはしまし所ちか（137オ）」けれはすこしよらせ給へるをさにやとおほゆる御にほひのうちかほりたるもまたならはせ給はさりつるほとなれは心さはきしてうれしきにむねさへおとろ〳〵しうなるも人わろき心なりいまはいかてかろ《けイ》〳〵しきけしきを見えたてまつらてかゝるかたさまにつけてもみなをされたて

まつるわさもかな思ふにもいふにもかひあるへき御さまにもあらぬものをなとしゐておほしなくさめつゝこの御心ちの事なとをのみすくよかにきこえさせ給はけにかたはらいたうきゝくるしきことにはあらねとはかくしくいらへきこえさせ給へきこともおほえさせ給はねはたゝう（137ウ）」ちなかせ給へるもあやしうなへてならす物あはれに心くるしきけはひなを人よりはことにおほさるゝをかくしもしなしたてまつりけんよと覚しつゝくるにそしのひかへさせ給へる御なみたももりいてさせ給ぬるあさましうおほつかなき御もてなしもおもへはすへてことはりに身よりほかにつらき人もなけれは猶いかてとくあらぬ所もかなとねかひ侍れといてやさてもかううき物に思しはてられてはいつく《ひとつ心イ》にもありかたふやのちのよをもいたつらにやなし侍らんとこそいみしけれ身にもせししにもせしとかやまことに身をこそおもふ給へわひたれ（138オ）」

きえはてゝかはねははひに成ぬとも恋のけふりはたちもはなれしとの給はするまゝにみすのうちになからはいらせ給て御そのつまをひきよせてなきかけさせ給涙のしつくいと所せきもおそろしくなるに院の御かたよりみちたとたとしからぬほとにはやかへらせ給ねみたりこゝちもいまなんきえはつる心ちし侍ときこえさせ給へるをきかせ給御心ちともさまくにみたれてものもおほえさせ給はぬに左大将まいりて御こしよせたるよしそうし給へはいてさせ給御こゝち中くおほつかなうてすくさせ給し年月よりもあかすあはれに思しめされて御（138ウ）」こしにもたてまつりやらさりけりおまへの花もさかりにさきみたれて夕露をもけにひもときわたしたる色々いつれとなき中にもをみなへしの人のみることやくるしからんきりのたえまにわりなけなるけしきにてたちかくれたるなとなをいとすきかたうおほしめさる

たちかへりおらて過うきをみなへし猶やすらはんきりのまかきにとなかめいらせ給へる夕はへの御かたちなをいとかはかりのためしあらしかしと見えさせ給をよとゝもに物をのみ思しつくしていかなりけるさきのよのちきりにかと見え給めれとあはれにもをかしくもわかき身の（139オ）」うへにて思しみにけることともをそかたはしもかきをきためるこれははかくしくゆへあることをみぬかけのくち木になりにけれは露はかりみところあるへきやうもなきにたゝをとこの心はおほる大将女はかはねたつぬる三宮はかりこそあはれにめやすき御こゝろなめれとからうしておもふたまへつれとおとこもをんなもこゝろふかきことはこのものかたりにはへるとそ本に（139ウ）」